

会誌「北海道の自然」への思い

●
松野 誠也
(札幌市)

幼少の頃の居住地が藻岩山登山口の近くで、まだ畑地・草原・小川などがあちこちにありました。家の裏には大きな柏の樹があり、背の高いキクイモが黄色の花を咲かせて群生し、遊び場にしておりました。その様な環境のもとで育ったことが自然に対する関心を持つようになったのだと思います。社会人になり関心が更に高まり、北海道自然保護協会（以下協会）の存在を知り、知識を深めたいとの思いで入会しました。1968年には既に会員になっておりました。

会誌が50号を迎えるそうですが、創刊間もない頃は毎号色変わりの表紙にスケッチ画を配し、頁数も現在ほど多くありませんでした。所有してい

るものが創刊以降のすべてかどうか定かであります
せんが、私の宝物です。

協会の事務局が現在地に移る前は北1条西7丁目の広井ビル内にありました。勤務先が近かったのでよく出入りしておりましたが、当時三木昇さんが職員としておられ、それ以来いろいろとお世話になりました。その後現在地に移ってからも自然観察協議会の仕事と併せ協会誌の発送のお手伝いなどでたびたび足を運んでおりました。会員への発送は郵便で実施しており、協会と歩歩の会(坂本直行さんを中心としたスケッチグループ)の会員でもあった当時の北三条郵便局長の井後さんにお世話になったことを思い出します。事務局に行く楽しみは自然保護関係の書籍を読めること、壁にかけられていた会員で画家の桑原宏さんの北大植物園を描いた油絵をみるとなどプラスになることが多々ありました。1992(平成4)年発行の会員名簿*をめくっているとお世話になった方がたくさんおられることを知り、なつかしさでいっぱいです。

協会の社会活動は設立当初にくらべ多岐にわたって来ていると思いますが、以前行っていたことで市民や会員に好評だったものをあげてみると、「美林ツアーや」を思い出します。楽しみながら知識と関心を拡げられるのは魅力あるものでした。「自然保護大学」とセットにして年1回実施するのはいかがでしょうか。

もうひとつちょっと気になっていることがあります。日本自然保護協会と連携のある自然観察協議会とのつながりが失われている様に思います。藻岩山展望台の建替えについて協会は提言をしておりましたが、この度完工オープンしました。しかし、2年前に発足した「藻岩山の森づくりプロジェクト」の存続が危ぶまれております。この事業を協会が引受け、自然観察協議会に委ねるという考えはどうでしょうか。ご一考をおねがいいたします。

なお協会が歩んで来た道については会長などを歴任しておられた八木・俵両先生の次の著作を読んでいただきたいと思います。

八木健三著「北の自然を守る 知床、千歳川そして幌延」(北海道大学図書刊行会、1995)

俵 浩三著「北海道・緑の環境史」(北海道大学出版会、2008)

*現在は個人情報保護のため会員名簿は発行していません (編集委員会注)